

会 議 議 事 録 (抄)

会 議 名	専門学校東京テクニカルカレッジ 第二回 建築・インテリア系教育課程編成委員会	
開 催 日 時	平成 30 年 11 月 22 日 (木) 15 時 00 分～17 時 00 分	
会 場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下 1 階 テラホール、11 階 1101 教室	
参 加 者	外部委員：6 名	内部委員・学内関係者：4 名
	＜外部委員：6 名＞ (順不同・敬称略、役職は委員名簿参照) 大塚雄二 (公益社団法人建築家協会 大塚雄二都市建築設計事務所) 霜野隆 (一般社団法人 日本インテリアプランナー協会) 樋口修 (株式会社ヒグチ設計/東京商工会議所中野支部) 須永裕之 (清水建設株式会社 東京支店 生産総合センター) 中山聡 (前田建設工業株式会社) 宮脇伸歩 (株式会社 LIXIL) ＜内部委員：4 名＞ 杉本安雄 (同 建築監督科科长) 野上和裕 (同 建築科科长、議長) 鈴木昇 (同 建築科夜間(建築士専科)科科长) 高山寿一郎 (同 インテリア科科长、書記)	
会 議 録	＜第一部 系別分科会＞ 15:00～15:30 B1F テラホール 1. 校長挨拶 専門学校東京テクニカルカレッジ校長 白井雅哲 2. 委員のご紹介 3. 議事 平成 30 年度事業進捗状況報告 ①基本方針に関する報告 ②カリキュラムポリシー策定に関する報告 ③シラバス改定に関する報告 ④リアルジョブプロジェクトに関する報告 ⑤厚生労働省委託事業に関する報告 ⑥その他、高等教育の負担軽減制度等に関する報告 ＜第二部 系別分科会＞15:40～17:00 1101 教室 1. 議長挨拶 (野上) 2. 前回 (系別分科会) 議事録の確認 (高山) 3. 各系各科の取り組み等に関する「意見交換」 建築監督科・建築科・建築科夜間・インテリア科の順に各科のカリキュラムポリシー (以下 CP) の特徴を説明させて頂き、現在 CP の作成が止まっていることも説明させて頂きました。 建築監督科の CP (杉本) 就職と QCDS をきちんと学ばせる。 履修判定試験の中で設計をさせる。 校外学習を行いレポートを提出させる。 建築科の CP (野上) 建築を体系的に学習するために、各期に核となる実習科目、それを助ける講義科目を配置。生活の基本となる住宅を学習し、様々な状況にも対応できる設計力・製図力を養うために、実務に基づいたパターン演習を行う (カリキュラムを現在作成中→後ほど作品を提示)。 CP 作成の中断理由は、現在の CP の中には資格取得 (二級建築士) に関する項目がないので、外部にも資格取得をアピールできるようなカリキュラムの編成を行った方が良い。CP の前のカリキュラムの見直しが行われている。 建築科夜間の CP (鈴木) 設計条件を現実的なところにおいて、課題の規模を小さくし、身近なところで一つの案がまとめられるようなことを繰り返していき、設計に対する興味を高められるような CP を考え	

ている。

インテリア科の CP（高山）

インテリアを体系的に学習するために、各期に核となる実習授業を設け、その実習を助けるかたちで講義科目を配置している。

講義科目でインテリアエレメントを学習し、知識を付けたうえで図面に表現する。

企業連携による校外学習や実習をとおしてインテリアエレメントの体験的な学習を行う。

CP の作成は中断していますが、引き続き各科の CP 作成に関する案を頂戴したいと思います。（野上）

二級建築士の難易度はどうなのか（樋口委員）

設計が昔と少し傾向が変わってきている。設計の意図を文章にしたり、設備的なことも図面に表すようになり、そのようなことから昔に比べ難しく感じるようになったのかと思う。昔より出題の幅が広がった。伏図や平屋の部分の矩計が出てきている。難易度は変わっていないのかと思う。RC は 3 年に一度に出題。（野上）

インテリア科の授業の中で実習と講義の組み合わせというのは良いシステムだと思うが、講義の内容がエレメントとかサイズに終始してしまうとパズル化的な発想の図面を描く傾向になってしまう。考える要素を入れると、パターン化された試験の中で少し傾向が変わると、試験に対応できなくなるが、自分で考えることの習慣がついていると対応ができるかと思う。（大塚委員）

現在の授業では、学生が全員同じ図面を描くのでパターンが乏しい。（高山）

パターン化されたものが同じであれば、どうしてそのようになっているのかの理由も話の中に入れたほうが良い。（大塚委員）

インテリアを考えるのも、外にどういう景色が見えるのか、窓をどこに置くのかでインテリアが変わってくる。定型的なものではなく周りのロケーションを加味しないといけない。（宮脇委員）

インテリアの情緒的なことはとても大切なお話で、実習授業の中で話をさせてもらっています。（高山）

建築科は二級建築士を目指していますが、インテリア科ではインテリアコーディネーター（以下 IC）は意識しているのか。（宮脇委員）

IC 取得を目指して勉強しています。今年は 3 名が学科（一次）試験を合格（3 名とも二次試験合格 2/18）。インテリア産業協会の情報では、29 年度受験者が 8 千 5 百人位、一次試験合格者 3 割程度、二次試験（製図・論文）は 5 割程度。一次試験を合格できれば二次試験もクリアできると考えている。（高山）

大塚先生からお話がかったところは専門学校のある意味限界で、標準ディテールを使って図面を描くことで授業を進めやすい。そこに至る意味を本当は説明しなくてはいけない。（鈴木）

企業のショールームだけではなく、建築家などのセミナーに参加して、設計の生の声などを聴くこともいい勉強になると思う。インテリアプランナー（以下 IP）の学科合格が 53% 位。AIP（準インテリアプランナー）は 200 人位の登録でほとんどが学生。学科から製図だと 3 割位の合格率になる。コーディネートの勉強の中に建築の要素を入れると IP になれる。（霜野委員）

	宮脇委員のところでは、インテリアコーディネーターの位置づけはどのようになっているのか。(鈴木) デザイナーには若いうちに IC を取るように話をしている。(宮脇委員) インテリアの技術者を育成するという意味の技術者とは、インテリアというどうしてもデザイナーだったり美的感覚や心地よさを加味することが必須だと思うのだが、どのように養成しようと考えているのか。(宮脇委員) 1 年次から IC 中心に住宅の勉強をしているので、インテリアエレメントにも強い住宅のコーディネーターができる技術者を目指しており、手描きでも図面が描けるし、PC でも図面や CG が描けるコーディネーターを目指している。(高山) 監督科カリキュラムの特徴 (杉本) 当校は職業実践専門課程を受けていて、認定を受ける条件の一つに企業連携があり、企業との連携の授業について話をさせて頂きました。 監督教養、監督リテラシーの授業では、設計者、お客さん、職人さんとどのように関わっていくのか、現実的なところを水沢工務店さんにお手伝い頂き、現場での校外学習を行わせて頂いている。 また、我々の授業が今の時代についていっているのか、西松建設様に授業を見てもらい意見を頂戴しました。モノを見せるということで現場見学をさせている。 企業の方々に来校して頂き、企業、現場の現実の話をしてもらっている。 前田建設工業株式会社、株式会社熊谷組、西松建設株式会社、株式会社フジタ等 5 社に授業をお願いした。 企業の授業の一コマ前に、授業のキーポイントのディスカッションを行って授業に臨んでいる。 このような授業をとおして建設会社で働く覚悟を学生に持ってもらおう。働くための体制を作っている。 卒業生の動向調査はされているのか。(霜野委員) なかなか動向調査は難しいが、卒業生が就職した企業を一通り回らせて頂いている。(杉本) 就職した学生に話をしてもらったことがあるのか (樋口委員) 近くにいる卒業生に、学生や高校生に向かって話をしてもらっている。(杉本) 建築科のカリキュラム変更後の授業の成果物についての説明。(野上) 【資料配布】カリキュラム変更後の授業資料、作品 (配置図、平面図、断面図、立面図、伏図、軸組図、矩計図、軸組模型) 木造の構造の感覚的な事も教えるといい。地震による住宅の変形などの写真を見せると感覚的にわかるのではないか。(大塚委員) 一級施工管理技士のレベルは難しいのか。(樋口委員) ある企業様では、一級施工管理技士は現場をやっていれば取れて当たり前でフォローをしない。一級建築士はお金を掛けてでも取らせるという話も聞く。(杉本) 建築科の授業は、二級建築士取得に直結する気がする。うまく資格に繋げるような内容を盛り込めれば、授業を受けるほうも資格取得に向けた準備をしていることを意識すると思う。(須永委員)
--	--

	CP の作成が止まった具体的な理由が聞けていない。前回の 3 つのポリシーに関しての発言が前回の議事録から抜けている。具体的に何をアドバイスしてほしいのかを話してほしい。(中山委員) CP の作成が止まった理由は、二級建築士の資格取得が出来ていない状態で作成するのではなく、まず資格が取得できるカリキュラムを作成することを先に進めるよう言われている。講師の先生方に意見を聞きながら一年かけてカリキュラム変更を順次進めている状態です。(野上) 授業の資料は良くできている。しかし、何を困っているのか分からず、何を質問すれば良いのかわからない。(中山委員) 改善していく方向で進めていきます。(野上) 建築科の授業資料は、良くできた教材だと思う。(霜野委員) 20 年位前はパターン演習で一時期多くの時間を使って木造の勉強をしており、その頃の学生は木造が強かったが、いつの間にか授業が消えてしまった。(杉本) 授業の時間数の問題で削ってしまった。(野上) 図面が読めないと、職人と話をしてもわからない。新入社員に図面を読めるようになるために研修を行っている。(須永委員) ビジネスにおいて上司と部下との関係。学校の場合では先生と学生との関係。必ずしも一致するとは限らないが、学生に教えたことがなかなか伝わらないようなジレンマを抱えているとしたら、改善はコミュニケーションをとることだと思う。授業の時間だけではなく、IT を使った方法や掲示板などを使ってコミュニケーションの工夫をすると、教員のジレンマを解消できるのではないかと思う。(中山委員) 4. 次回日程 (議長) ・平成 30 年度卒業研究・卒業制作および RJP 学習成果発表成果発表会 平成31年3月14日 (木) 14時00分～17時00分 各科学習成果発表の評価者として参加をお願い致します。 5. 閉式の挨拶 (議長)
--	--

以上